

情報教育と人間形成



十文字学園女子大学 社会情報学部長 芦葉 浪久

1 情報教育のとりえ方

毎年、秋から冬にかけて全国の学校でコンピュータ利用教育の公開授業や研究発表が行われる。最近はその名称に「情報教育」と使われることが多い。その内容は、「社会」でのデータベース利用、「算数・数学」での問題演習や図形作成、「理科」での実験データ処理、「図工・美術」での描画ソフトの利用、「音楽」での音楽ソフト利用、「技術」での機械制御などさまざまである。

文部省が平成2年に刊行した「情報教育に関する手引」（以下「手引」と略称する）の中には、各教科の学習で実施できる情報教育の事例が列举されている。ところが、その頃実際に行われていた情報教育は、ワープロソフト・表計算ソフト・データベースソフト・図形処理ソフトの利用が、コンピュータ利用教育の先進校において、特定の教科で実験授業として試みられているに過ぎなかった。その頃、CAIによる算数・数学のドリル学習は情報教育とはみなされていなかった。これは授業時間中キーボードをたたいて算数・数学の演習をやっている、文部省が教育内容として示した「情報の判断、選択、処理、創造、伝達」をやっているとはいえないという理由からである。ところが、コンピュータの授業利用は次第に種々の利用方法が複合的に用いられるようになってきている。実際の授業運営面からは授業時間の中で

この部分はCAI、この部分はツール学習と明確化することの意味はなくなっている。また、使用する学習用ソフトウェアの面からも、1本のソフトウェアの中に、CAI部分とツール学習部分が入り、これらの区分は実際の使用上考える必要はなくなっている。

これから、授業場面に立った情報教育を具体的に示すと、次のように幅広いものになる。

2 情報教育の具体例

(1) 小・中・高校における具体的情報教育の分類

学習形態	分類	学習例
操作学習 プログラミング学習	1 ツールソフトの操作	1 ミドルウェアの操作学習（ワープロソフト、表計算ソフト、データベースソフト、図形処理ソフト、グラフ作成ソフト）
	2 プログラミング	2 ロゴによるプログラミング学習 3 他の言語によるプログラミング学習
ツール学習	3 表現のツール	4 ワープロやDTPソフトによる国語表現学習（ドキュメント処理）
		5 音楽ソフトによる編曲や作曲の学習
		6 図形処理ソフトによる数学の図形学習
	4 検索・分類	7 グラフ作成による数学、社会、理科等のグラフ表現学習
8 描画ソフトによる美術の学習 9 表計算ソフトによる社		